

忙 申 閑

愛飲家です（会員の皆様にも多いかと思えます）。ちょうど二十歳で大学へ入学したため、入学と同時に飲酒が解禁となり、それ以来ずっと酒と喜怒哀楽の人生をともにしてきました。ウイスキーはあまり好みませんが、それ以外は色々と今日に至るまで、家での晩酌や同僚・友人との外飲み（酒場放浪）で楽しんでいます。病院で当直をしていた6年前までは当直日が休肝日になっていましたが、それ以降は妻に「休肝日作った方がいいよ。飲まないのは検診の前の日ぐらいやないの」と小言を言われる日々が続いてきました。ですが節度をわきまえて嗜んでいますので？肝機能は常に良好です。

前置きはこれくらいにしまして、昨年早々から今日（第3波に伴う緊急事態宣言発令中）に至る長期間のコロナ禍で、我々愛飲家の酒場放浪が大きく制約される事態になって

しまいました。「飲食の場での感染リスク高し」とのことで、外飲み＝悪、まして医療者の中核たる医師が酒場で感染したらもっての外、という風潮です。結果、巣ごもりして家飲みに徹するしか生き延びるすべが無くなってしまいました。しかしそのお陰で、酒飲み人生最大の気付きを得ることができました。それは「ビール系飲料の“新ジャンル”は、実は美味かったのだ！」ということです。

愛飲家の皆さんはよくご存じかと思いますが、ビール系飲料はビール・発泡酒・新ジャンル（第三のビール）の3種類に大別されます。発泡酒は麦芽使用比率が50%未満とビールより低く、新ジャンルは発泡酒に麦由来のスピリッツを加えたものを指します。そして、ビール＞発泡酒＞新ジャンルの順に原材料費・酒税ともに高く、新ジャンルが最も安価な製品となっています。昨年10月に酒税改

コロナ禍が教えてくれた“新ジャンル”（第三のビール）の味

広報委員 上田 祐二

正があり、ビールと新ジャンルの酒税差は一気に17円（350ml缶）縮まりましたが、それでもまだ大きな価格差があります。

晩酌は「まずはビールから」が定番ですので、これまではA社のスーパーDや、少し濃い目の気分時にはSP社のEBSをもっぱら愛飲してきました。そして「新ジャンルはよく売れているようだが、どうせ安かろうまずかろうだろう。あんな物には絶対に手を出すものか」と決めつけてきました。しかし、テレビCMでは杏さんやタモリさんが美味しそうに新ジャンルを飲み干すシーンが頻回に流れ、コンビニの冷蔵棚にはビール以上に新ジャンルが数多く陳列されています。ですから昨年の夏に、試しに新ジャンル売上げNo.1のK社の本KRNを1本買って飲んでみました。まずグラスに注いで、ほほほほビールのようなきめ細かい泡が立つことに驚きまし

た。そして飲んでみて、ビールとはまた異なるコクや飲みごたえに感心しました。その後、秋に某新聞販売店が5年間継続購読したサービス品としてS社の金Mを1箱持ってきてくれました。従来なら「これはビールではないので実家の親父殿に謹呈！」となっていたのですが、これもトライしてみるとS社自慢の天然水仕込みも効いているのか、また好きになってしまいました。このような経緯で、安価でも完成度が高く美味しい新ジャンルにすっかり魅了され、コロナ禍で楽しみが少ない中、病院帰りにコンビニに立ち寄っては新商品を手に取っています。

「安かろう美味かろうでいい出会いやったねえ。お陰で家計も助かります」と妻も喜んでくれています。おまけに休肝日のことは忘れてくれたようです。しめしめ。